

<教育目標>

「やさしく かしこく たくましく」

ヒマラヤ杉のように力強く未来へ
～一人一人の笑顔が輝く**楽校**～

つなぐ楽校

つながる楽校

地域・児童の実態等を踏まえ、志を持ち
「知・徳・体」の調和のとれた 人間性豊かで
たくましい児童の育成に努める



力強くそびえる
校木
「ヒマラヤ杉」

■学校の沿革

明治6年12月	開校児童数121名
12年2月	欠入分校開設
13年5月	羽出庭分校開設
13年11月	和田分校開設
20年4月	丸森高等小学校と改称
大正14年	本校舎新築落成
昭和4年8月	世界教育会議（デンマーク）日本代表として実践資料提出
8年11月	校歌制定
9年	羽出庭分校現在地に校舎新築
16年4月	丸森国民小学校と改称
22年4月	丸森小学校と改称
34年9月	完全給食開始
36年4月	県指定学力向上対策研究公開
43年1月	羽出庭5、6年児童本校に通学開始
46年8月	現プール落成
49年3月	創立100周年記念式典
49年10月	文部省指定道徳教育研究公開
50年	ヒマラヤ杉 校木に選定
54年3月	和田分校閉校
54年8月	新校舎落成・欠入分校閉校
56年3月	校舎増築・屋体落成
平成7年8月	安全プール管理委員会設置
13年11月	校舎西階段手すり設置
14年5月	外階段中央手すり設置
16年7月	チョボラ隊発足
18年	校舎西側人工芝張り替え
23年3月	震災のため臨時休業
24年1月	体育館放送設備交換
27年3月	羽出庭分校閉校
28年8月	オリ・パラ教育推進校に指定
30年1月	校舎ベランダ・テラス工事
令和元年10月	台風19号による被害甚大のため臨時休校 体育館を避難所とする
11月	金山小学校の校舎使用不可のため、4学級28人を受け入れ、会議室を金山小学校の校長室・職員室にする
11月	丸森中学校で学習発表会実施
12月	避難所解消
令和2年3月	新型コロナウイルス蔓延により、町内一斉に臨時休校措置
3月	金山小学校の5人の6年生が、本校体育館で卒業式を実施
8月	金山小学校が復旧し、元の校舎に戻る
令和3年4月	大規模改修のため仮設校舎に移転

■職員

校長	佐藤 芳樹	少人数指導	清水 勇一
教頭	菅原 研	養護教諭	稲田 玲子
主幹教諭	横内 彰	主事	鹿野 恵太
教務主任	須藤 栄喜	技師	村上 るみ
研究主任	永田 翔哉	教員補助員	佐藤 弘子
1年1組	牧野 七恵	業務員	瀧口 隆平
2年1組	菅原 史帆	外国語専科	目黒 裕子
3年1組	高橋 泉	理科専科	菅原 敦
4年1組	永田 翔哉	初任研後補充	佐藤 和子
5年1組	阿部 亘平	拠点校指導	伊藤 常春
6年1組	佐藤 由香	スクールカウンセラー	鈴木 順子
ひまわり	白川 智佳	放課後学習支援	八巻 浩通
すぎのこ	佐藤 優希	育児休暇	山内 美佳

■校医

内科	山本 政秀	歯科	谷津 正則
眼科	油井 秀夫	薬剤師	齋藤 真奈美
耳鼻科	大久 俊和		

■在籍児童数

学年	1	2	3	4	5	6	す	ひ	合計
男子	17	8	12	14	11	15	1	2	80
女子	15	19	9	16	16	16	0	0	91
合計	32	27	21	30	27	31	1	2	171

* 令和3年4月1日現在

令和3年度 丸森小学校校舎配置図（仮設プレハブ校舎）

<2階>

コンピュータ室	男子 WC	流し	少人数教室	理科・図工 倉庫	児童クラブ
3年1組 21名	4年1組 30名	女子 WC	5年1組 27名	相談室	6年1組 31名

<1階>

昇降口	男子 WC	流し	印刷室・図書室	2年1組 27名	保健室	女子 更衣室 保健・特支 倉庫
職員室	校長室	女子 WC	1年生 32名	配膳室	自然情緒障害 ひまわりの学級 2名	知的障害学級 すまのこ学級 1名

特色ある教育活動

学区の概要



【FG活動】

- 縦割りのFG（ファミリーグループ）では、上級生が下級生の世話をし、仲良く遊びます。
- 丸森婦人会の方の指導によりEM菌作りを行い、プールやトイレ洗浄に利用しています。



【EM菌液づくり】



【昔話の会】

- 丸森ざっと昔ばなしの会の皆様により、定期的に丸森の昔話を聞かせていただいています。
- 令和元年の台風災害の経験から、学校防災について町の防災担当職員から学んでいます。



【防災の授業】



【多読賞の表彰】



【花苗の配布】

本校は、東経140°45'，北緯37°54'に位置し、当学区は南北及び西側に広がっている。北部には阿武隈川が流れ、南部には福島県に連なる山地が迫っており、山間部の面積の割合が大きい。世帯数約1300戸，人口約4000人，20の行政区があり，中央部には役場・病院，銀行・農協等があつて，行政・商工業・文化の中心地である。

生活を支える産業は農業が中心であるが，主に高齢者がそれに当たり，若い層は近隣の企業に勤める兼業農家が大部分である。よつて本校の保護者も共働きが多くなつている。交通手段は，阿武隈急行を主としているが，山間部の交通手段として町民バス，児童生徒は登下校にスクールバスと町民バスを利用している。大部分の家庭では自家用車が中心である。

国道113号線に加えて館矢間バイパスが開通したことで，中心部の交通渋滞が解消され，児童の登下校が安全にできるようになってきた。また，近年都市化の影響を受けて少子化・高齢化が進む中で，新たな地域社会の課題も見られるが，四季折々の自然に恵まれ，人情豊かな学区である。